

市政概要報告要旨

(令和元年九月四日)

令和元年九月定例会市議会にあたり、市政の概要について申し上げます。

○圏域の連携推進について

中海・宍道湖・大山圏域市長会におきましては、議会や経済界とともに「中国横断新幹線（伯備新幹線）整備推進会議」を五月に立ち上げ、山陰新幹線と合わせ、現在の基本計画路線から整備計画路線に格上げし、次期整備計画への位置付けを目指すことを決議しました。六月には圏域五市の市長が揃って国へ強く要望したところであり、今後は、導入効果に関する調査や総決起大会の開催を予定しております。

中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構は、一般社団法人化に必要な手続きを終え、「中海・宍道湖・大山圏域観光局」として始動しました。

スピード感のある事業展開のもと、外国人観光客の受入環境の整備を一層進め、圏域への誘客と消費拡大を目指してまいります。また、国内におきましては、三大都市圏に加え、山陽方面や出雲空港に路線を有する静岡・仙台方面への観光プロモーションに取り組み、圏域の認知度向上を図ることとしております。

また、米子市とは先月二十一日に連携懇談会を開催しました。両市が抱える共通の課題のうち、米子・境港間の高規格幹線道路の事業化、JR境線を生かしたまちづくり、白砂青松の弓ヶ浜サイクリングコースの利活用の三点について、米子市長と率直に意見を交わし、今後、両市が歩調を合わせ、取り組みを進めていくことを確認したところであります。

○環日本海交流について

環日本海国際フェリーにつきましては、運航するDBSクルーズフェリー社の経営体制が六月に変更されたことを受け、鳥取県とともに職員を韓国に派遣し、新しい経営陣に運航継続を強く働きかけてまいりました。

七月五日には、DBSクルーズフェリー社の新たな代表理事をはじめ、関係者が一堂に会し、就航十周年という大きな節目を祝う記念行事を本市で開催しましたが、その際に、私からも直接要請したところであります。

この航路は、圏域の発展に欠かすことのできない「海の道」であります。将来にわたり末永く発展させるため、鳥取県をはじめ、関係機関と一丸となって支援してまいりたいと考えております。

機材繰りの影響により、七月六日から週三便に減便されておりました米子鬼太郎空港のソウル便は、先月二十二日から週六便に戻ったものの、日韓関係の悪化による韓国人利用客の急減を受け、今月十六日から来月二十六日までの間、週三便に減便されることとなりました。環日本海国際フェリーにおきましても、韓国人利用客が落ち込んでおり、圏域の観光等に深刻な影響が生じるのではないかと懸念しているところであります。

一刻も早い関係改善を強く望むとともに、関係機関と連携し、これ以上の利用客の減少を食い止め、冬ダイヤでの週六便への復活を働きかけてまいりたいと考えております。

○観光振興について

水木しげるロードにつきましては、入込客数が五月の十連休に前年の約二倍となる四十万人余を記録するなど好調に推移し、昨年七月のリニューアル以降の一年間で三百二十万人を超える方々に楽しんでいただきました。

特に、新たに導入した「夜間の演出照明」等の効果で夜間の入込客数が大きく伸びており、この夏は、七月から今月末までの間、クリスマス・正月に続く期間限定の妖怪影絵を登場させているところであります。

また、地元商店街におかれましては、昨年につき、夏休み期間中に土曜夜市を開催され、観光客や市民の方々に賑わいました。市も開催に合わせ、妖怪の着ぐるみとの練り歩きや記念撮影が楽しめる「妖怪ナイトウォーク」のほか、はまる一歩バスの夜間運行を実施するなど、官民あわせて「夜の賑わいづくり」に取り組んだところであります。

水木しげる記念館につきましては、開館から十六年が経過し、老朽化も進んでいることから、関係団体や学識経験者で構成する「水木しげる記念館あり方検討委員会」を設置し、今月、一回目の会議を開催しました。今後求められる役割や機能などについて、様々な角度から検討を進め、本年度内に提言を取りまとめていただくこととしております。

境港へのクルーズ客船の寄港は、七月末現在で三十三回を数え、四月二十四日には、世界で最も有名な豪華客船「クイーン・エリザベス号」の初寄港など三隻が同時に寄港し、郷土芸能等によるおもてなしで歓迎しました。また、岸壁は多くの見学客で賑わったところであります。

最終的には、六隻の初寄港を含む、昨年を上回る五十回余の寄港が予定されており、そのうち約二割が八万トンを超える大型客船となっております。

○水産業の振興について

令和元年上半期の境漁港における水揚量は、サバ、マイワシの減少により五万八千トン余、前年比七十三%でありましたが、水揚金額につきましては、百二十四億四千万円余、前年比百五%となりました。

境漁港の高度衛生管理型漁港・市場整備につきましては、「安心と安全が、進化するみなと」として、六月一日に陸送上屋と一号上屋が供用開始となりました。

前日に初水揚げとなったクロマグロをはじめ、新鮮な水産物が衛生管理の行き届いた市場から全国各地に出荷され、消費者の安心・安全に対するニーズの高まりにしっかり応えているほか、競りなどの様子を自由に見学できるスペースが設けられ、本市の新たな観光資源としても期待されるところであります。

五月に、二年ぶりに開催された「みんなで選ぶ境港の水産加工大賞」には、前回を上回る十二団体十三品の水産加工品が出展され、約千二百人の来場者で賑わいました。

また、六月の「まぐろ感謝祭」には、県内外から昨年を上回る約六千人が来場し、境港で水揚げされた生の天然クロマグロを味わったほか、首都圏などにおきましても、マグロの解体ショーや試食が行われたところでもあります。

今後も、二号上屋の新築をはじめ、高度衛生管理型への整備が一段と進む市場の積極的なPRや魚食普及のイベントを通じて、境港ブランドの付加価値や認知度のさらなる向上を図ってまいります。

○外国人材との共生について

日本語教室につきましては、開設した二月から先月までの間、十回開催し、延べ三百人余の参加がありました。交通安全指導などを交えながら、市民ボランティアの皆様とやさしい日本語での会話等を行い、参加した方々からは好評をいただいているところであります。

また、市民活動団体の協力のもと、七月に開催した交流会においては、技能実習生が茶道や書道、浴衣の着付けといった日本の伝統文化を体験し、市民の方々と交流を深めました。

今後もこうした活動を通じて、地域住民と外国人材との相互理解を深め、地域の一員として安心して暮らすことができる環境づくりを進めてまいりたいと考えております。

○高規格幹線道路の整備について

米子・境港間の高規格幹線道路の整備につきましては、鳥取県知事、米子市長とともに、先月七日に初めて国への要望活動を行いました。

要望では、境港の貨物取扱量の大幅な増加やクルーズ客船の寄港等による外国人観光客の急増、境漁港の高度衛生管理型漁港・市場整備による機能強化など平成十八年の事業凍結以降、圏域を取り巻く情勢が大きく変化していることを説明し、整備を求める地元の一体的な声を強く訴えたところであり、ご理解いただけたものと感じております。

境港、境漁港、米子鬼太郎空港からの物流や人流の円滑化が図られ、圏域のさらなる経済発展に資するとともに、原子力災害などの大規模災害時には強靱で信頼性の高い避難ルートとなる高規格幹線道路の一刻も早い事業化に向け、今後、関係する自治体が協力して活動する体制の構築に取り組んでまいりたいと考えております。

○防災対策について

防災行政無線のデジタル化につきましては、公募型プロポーザル方式で提案者を募集し、先月三日に開催した審査委員会において、提出された企画提案書やヒアリングによる審査が行われました。

今後、審査結果に基づき決定した事業者と仮契約を締結する予定としております。

原子力防災訓練につきましては、地震による自然災害と原子力災害との複合災害を想定した訓練を計画しております。

今回は、市民の方々を対象とした屋内退避訓練を初めて行うほか、渡地区と外江地区の住民がバスやJR等を利用して、避難退域時検査会場となる大山町の名和農業者トレーニングセンターへ避難する訓練を行うこととしております。

○学校教育について

本年度から中学校に一人ずつ配置した部活動指導員につきましては、ハンドボール、剣道、バドミントンの各部で技術的な指導等に当たっており、各学校からは、部活動指導の充実のみならず、教職員の負担軽減にもつながっているとの声を伺っております。

コミュニティ・スクールにつきましては、四月から第一中学校区で導入しました。中核となる学校運営協議会がこれまで二回開催され、各学校の経営方針を承認し、今後の運営計画と取り組みを協議したほか、各部会でも、活発な議論がされているところであります。

他の中学校区においても、昨年度から準備を進めている第三中学校区では、地域学校コーディネーターを新たに配置し、第二中学校区では、導入に向けた準備委員会を立ち上げました。

先月、市民の方々等を対象に「地域学校協働推進フォーラム」を開催したところでありますが、引き続き、コミュニティ・スクールの導入目的や具体的なイメージなどについて、保護者や地域の方々への情報発信を行い、理解を深めてまいりたいと考えております。

余子小学校と誠道小学校の統合につきましては、これまで開催された統合準備委員会において、備品の移管など統合に必要な事項について各部会が協議した結果の報告を受けるとともに、通学路の設定について意見交換したところであり、来年四月の統合に向け、順調に準備が進んでおります。

学校給食につきましては、四月から調理等の業務を民間事業者に委託しております。事業者が積み上げてきたノウハウの活用による様々な改善が図られ、給食がより温かい状態で提供されているほか、調理員が学校に出向き食育教室を行うなど、各学校からも好評をいただいているところであります。

○社会教育について

二〇一九レーザ一級世界選手権大会が、六月二十六日から七月二十四日までの間、境港公共マリーナ及び美保湾を会場として開催されました。およそ六十の国から約三百人の選手が参加し、東京オリンピックの国別出場枠をかけた熱戦が展開され、競技関係者の皆様からは、レース環境などについて高い評価を受けたところであります。

開催にあたり、小中学校や公民館に加え、民家においても、それぞれが作成した歓迎や激励の横断幕等が掲げられたほか、高校生や市民の方々が運営ボランティアとして参加するなど、温かいおもてなしができたものと思っております。

また、大会期間中、多くの選手や関係者の皆様が市内の宿泊施設に滞在し、水木しげるロードなどの観光も楽しめました。そうした情報も国外に発信され、本市の大きなPRにつながったものと考えております。

仮称・境港市民交流センターの整備につきましては、発注方法を公表したほか、建設工事入札参加資格の追加申請を受け付け、審査の上、認定したところであり、年内の発注に向け、鋭意準備を進めてまいります。

○子育て支援の充実について

来月から始まる幼児教育・保育の無償化につきましては、保育園などを通じて、対象や手続き等を保護者の方々に周知したほか、市内の認定こども園において説明会を開催したところであります。

また、必要となる条例改正並びに補正予算を今議会に提案しており、円滑な実施に向け、引き続き準備を進めるとともに、きめ細かい周知に努めてまいります。

例年、年度中途において発生している待機児童の対策として、私立保育園への雇用奨励金の要件や金額を本年度から大幅に拡充しました。これまでに正規職員として一人が採用され、新たに三人の0歳児が受け入れられたところであります。

○高齢者福祉の充実について

近年、市内におきましては、大型店等の進出が相次ぐ一方、長年営業してきた店舗が閉店するなど、買物環境が大きく変化してきていることから、毎年四月から五月にかけて実施している高齢者実態調査に合わせ、高齢者の買物環境に関するアンケート調査を行い、千五百人余の方々から回答をいただきました。

調査結果では、買物環境に「特に不満を感じていることはない」との回答が全体の約七割を占めたものの、地区により特有の課題もあることから、民生委員をはじめ、各地区の皆様のご意見等を伺い、高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して生活することができるまちづくりに生かしてまいりたいと考えております。

以上、市政の概要についてご報告申し上げましたが、議員並びに市民各位の格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。